

令和 8 年度国際理解ワークショップ 進行シート

令和 8 年 8 月 18 日作成

大 学 名 : 新潟国際情報大学

タイトル : 「はじめまして！」から始まる多文化共生～出会いから広がる新しい世界～

1. 本ワークショップに関連する SDGs の目標に○印をつけてください。

○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標
	 ①貧困をなくそう		 ⑦エネルギーをみんなに そしてクリーンに		 ⑬気候変動に 具体的な対策を
	 ②飢餓をゼロに		 ⑧働きがいも 経済成長も		 ⑭海の豊かさを 守ろう
	 ③すべての人に健康と 福祉を		 ⑨産業と技術革新の 基盤をつくろう		 ⑮陸の豊かさも 守ろう
	 ④質の高い教育を みんなに	☐	 ⑩人や国の不平等 をなくそう		 ⑯平和と公正を すべての人に
	 ⑤ジェンダー平等を 実現しよう	☐	 ⑪住み続けられる まちづくりを		 ⑰パートナーシップ で目標を達成しよう
	 ⑥安全な水とトイレを世 界中に		 ⑫つくる責任 つかう責任		

2 : 本ワークショップの要旨

自分の住んでいる国と他国の日常生活にみられる文化の違いを知っていますか？新潟県には今、約2万5千人の在留外国人がいます。それに伴い、身近な場面でも外国人と関わる機会が増えています。このワークショップでは、実際に新潟県で暮らす外国人の声を聞きながら、日常生活の文化に触れます。そして、体験を通じて他者の価値観や異文化を知ること視野を広げ、遠かった世界を身近に感じられるようになります。新潟県で多文化共生社会の一步を踏み出すために大学生と一緒に学びましょう！

3 : 本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

新潟県に暮らす在留外国人の日常や経験に触れ、生活の中にみられる文化や価値観の違いを体験的に学び、異文化に触れることを目的とします。

身近な場面で増えている外国人との関わりをきっかけに、参加者が自身の視野を広げ、遠かった世界を身近に感じられる感性を養います。大学生とともに学びを深めることで、新潟県における多文化共生社会の一步を主体的に踏み出すことを目指します。

4：本トピックをとりあげる理由

近年、外国人が増加していることで、外国人に対するフェイクニュースや悪質なデマが飛び交っています。そのようななかで、子どもたちに「外国人に対してマイナスなイメージを持つてほしくない」という思いから、このテーマを選びました。体験や交流を通じて、異文化を楽しく理解してほしいと思います。

5：活動過程（使用時間：90分 対象学年：小学校5年生）

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反 応、その他注意 事項
導入：起 (19分)					
大学生・留 学生自己紹介 (4分)	ファシリテ ーター・留学生 が前に出て自 己紹介	自己紹介の前に 名前シールを書 いてもらう。	大学生と留 学生のこと を知っても らう。	・名前シール ・ペン	始まる前に、事 前に各国のイメ ージをワークシ ートに書いても らう。
グランドル ール・SDGs 説明 (2分)		ベルが鳴ったら 前を向くと伝え る。 本ワークショップ に関する SDG s がどれかを伝 える。	どのSDG sの項目が 関係してい るかを知っ てもらう。	・ベル	
アイスブレ イク(8分)	世界のあいさ つコレクション	① ランダムに カードと用 紙を配る。 ② あいさつの やり方の手 本を見せる。 ③ 本番 ④ もらったカ ードをチェ ックする。	いろいろな 国のあいさ つを知って もらう。 参加者の緊 張をほぐす。	・用紙 ・あいさつカー ド ・ペン	あいさつの仕方 (1) 「はじめま して」という (2) 自分の国の あいさつを してカード を交換する。 (3) 「〇〇(名 前)です。お 願 い し ま す。」という。
新潟県内の在 留外国人の数 (2分)	カードの数に ついて	カードに書いて ある番号は何の 数字かを問いか ける。	どの国の人 が新潟には 多いかを知 てもらう。		グループ内で答 えを考える時間 があるので、話 し合ってもら う。

新潟の在留外国人の出身国の割合のグラフ 今回の目的 (1分) 多文化共生について (1分) 今日のゴール (1分)	新潟の在留外国人の出身国の割合のグラフ 今回の目的について 多文化共生の説明	新潟の在留外国人の出身国の割合のグラフを見せ、多い順番に数字がふられていると伝える。 「多文化共生に向けて実際に国際交流する大切さを知る。」という目的を伝える。 多文化共生の定義を説明する。 視野を広げ、多文化共生の第一歩にするというゴールを伝える。	新潟県内にいる在留外国人が増えていることを知ってもらう。 目的を知ってもらう。 多文化共生の定義を知ってもらう。 今日のゴールを知ってもらう。	目的の模造紙 (前に貼る) 定義の模造紙 (前に貼る) ゴールの模造紙 (前に貼る)	
展開：承 (30分) 異文化体験 (15分)	外国の文化体験(中国、インドネシア、ネパール)	外国の文化体験をする。体験したい国を選んで、2つ体験する。途中で交代し、別の遊びも体験してもらう。	異文化に触れてもらう。	・文化体験に使う道具 (輪ゴムなど)	難しいようであれば、大学生が教えてあげる。 交代する時間は司会が合図する。

留学生のエピソード (8分) 班内共有・質問 (7分)	留学生が説明する。 留学生が話したことを班内で確認する。	留学生がどのような経緯で留学したかについて説明してもらう。 その後に、留学生に対して質問する時間を設けるので、班内で聞きたいことを考えてもらう。	留学生について知ってもらう。	・メモ用紙	質問を考えるのが難しそうであれば、チームの大学生が質問を促す。
発展：転 (20分) 留学生の気持ちを理解してみよう (15分) 発表・説明 (5分)	留学生の立場になって考えてみる。	外国人に対する具体的な事例を提示し、「これを見てあなたはどうか感じたか」、「なぜ外国人はこの行動をしたのか」について、それぞれの立場になって考える。 班で考えたことを発表する。 その後、実際の理由を留学生から説明してもらう。		・模造紙 ・ペン ・ふせん	内容が難しいので、大学生は参加者が考えやすいように促す。留学生も参加するかもしれないので、留学生と参加者の交流を促す。

まとめ : 結 (10 分)					
振り返り (5分)	今回の目的	多文化共生社会 に向けて、相手の 立場になって 考える大切さを 知ってもらいた いという目的を 伝える。	今回の目的 を知ってもら う。		
まとめ (2分)		外国人というこ とを理由に差別 されている現実 を伝える。外国 人としてではな く、1人の人間と して向き合うこ とが大切だと伝 える。			
留学生からの メッセージ (3分)		外国人の方が参 加者に伝えたい ことを言う。			
アンケート		アンケートに回 答してもらう			
予備 (10分)					

6：会場のセッティング（対面の場合のみ）

- ・ いすと机を使います。

7：使用する教材

- ・ ペン
- ・ ベル
- ・ 名前シール
- ・ 模造紙
- ・ あいさつワークシート
- ・ あいさつカード
- ・ 輪ゴム

8：参考にした資料

- ・ Insight Academy (2019)「カルチャーアイスバーグ」とは？海外ビジネスで重要な異文化理解のメカニズムを解説
<https://client.insighta.co.jp/globalhrnews/6621>

(最終閲覧日:2026 年 7 月 20 日)

- ・松尾知明著(2020)『移民時代』の多文化共生論」明石書店 第四章
- ・新潟県「新潟県在住の外国にルーツのある方の生活と意識に関する調査報告書」
https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/life/593076_1681128_misc.pdf

(最終閲覧日:2026 年 6 月 10 日)

- ・新潟市 (2025)「新潟市多文化共生基本方針」
<https://www.city.niigata.lg.jp/shisei/kokusai/machidukuri/tabunkakyosei/index.files/kihonhoshin.pdf>

(最終閲覧日:2026 年 7 月 21 日)

- ・岡田真理紗(2020)「外国人増加への期待と不安～外国人との共生社会に関する世論調査から～」第 70 巻第8号、78-87 頁。 https://www.jstage.jst.go.jp/article/bunken/70/8/70_78/_pdf/-char/ja (最終閲覧日:2026 年 6 月 10 日)

- ・出入国在留管理庁「外国人との共生に関する意識調査(日本人対象)」
<https://www.moj.go.jp/isa/support/coexistence/survey03.html> (最終閲覧日:2026 年 6 月 10 日)

- ・山崎寛己著(2025)「中学生が多文化共生について本気で考えてみた」東洋館出版社

9：その他